

## 日本家族社会学会ニュースレター

No. 28      2002. 5. 30.      編集・発行 日本家族社会学会事務局  
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学教育学部社会学・山田昌弘研究室  
電話：042-329-7422 FAX：042-329-7429

NEWSLETTER

### 日本家族社会学会第12回大会

第12回大会のご案内

(大会ニュースNo.2)

日本家族社会学会第12回大会実行委員会  
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1  
東京学芸大学  
委員長：直井道子

第12回大会が東京学芸大学で開催されます。今からご予約に入れ、ふるってご参加ください。

1. 日程 2002年9月21日（土）、22日（日）
2. 会場 東京学芸大学（武蔵小金井キャンパス）  
JR中央線武蔵小金井駅よりバス10-15分  
交通案内の詳細は後日お知らせします。東横線沿線に学芸大学前という駅がありますが、ここには付属しがなく、全く別な場所ですのでご注意ください。  
またJR宇都宮線に小金井という駅がありますが、これも全く方向ちがいです。
3. 参加費 4,000円の予定。  
参加費の事前払い方式の申し込みは、今回は行ないません。なお、大会プログラムを送付する際に、お弁当の注文についての受け付けの案内のみ致したいと思います。
4. 懇親会 交通の便が悪いため、大学でケータリングでごく簡単な懇親会にしたいと考えております。料金も安めの設定となると思いますので、ふるってご参加ください。
5. 宿泊 東京ですので、とくに仲介は致しません。ランダムに紹介しますと、近いのはホテルメッツ国分寺（徒歩20分ほど）、ホテルメッツ武蔵境（武蔵小金井まで2駅）、吉祥寺（武蔵小金井まで4駅）東急イン、第一ホテルなどがあります。新宿から武蔵小金井駅まで30分弱とお考えください。



これまで結婚の機能といえば、性的秩序の維持などが指摘されてきましたが、今日問われているのは、その維持されなければならない、あるいは現実に維持されている性秩序とは何かということでもあります。それが男性中心のジェンダー秩序であれば、結婚の存在理由そのものが改めて問われることになるでしょう。さらに個人にとって性的欲求の充足などが指摘されるとき、それはどのような欲求なのでしょう。

これまでの論議ではその個人は常に異性愛の成人を前提にして考えられてきたのではないのでしょうか。そこで、たとえば同性愛のカップルにとって「結婚とは何か」を考えてもらったり、また結婚にとって子どもの存在は、どのように考慮されるのかななどを論議していきたいと思います。加えて、社会的地位の付与機能にしても、それは自立した個人の尊厳保障が期待できなかった社会のあり方の反映であったといえるのではないのでしょうか。

これらの問いは、家族社会学のオーソドックスな問いであります。これらの問い（論議）を不問に付して、全く一貫性のない矛盾した結婚や夫婦関係に関する調査データであろうとも、方法論的手続きや統計学的解析がいくらか高度であれば、よい研究などと評価されがちな今日の学会気風は反省されなければなりません。いずれにしろ、どのようなシンポジウムになるかは、報告内容とフロアからの積極的な参加に依存しています。極めて画期的で魅力的なシンポジウムになると信じています。大いに期待してご参加くださいますようにご案内いたします。

(野々山久也・甲南大学)

家族社会学会事務局より

## 編集委員会より

家族社会学研究14:1の編集作業がそろそろ終わろうとしています。今号でも多くの投稿論文が寄せられ、嬉しい悲鳴をあげました。これからもどしどし投稿していただければと希っています。にもかかわらず、編集委員会としては、頭の痛いこともあります。査読の労をとっていただく委員の方々にはただ宜しくと平身低頭するばかりですが、内容的ならびに形式的（書式、規定枚数遵守）に投稿された論文の完成度が低い為、査読の労がより過重になっています。そればかりか、第一次査読のコメントに対応できずに投稿取り下げが多発する状況で、査読委員の方々のせっかくの真剣な作業とコメントが宙に浮いてしまう結果となります。投稿される会員はこの傾向と問題点を念頭において、各種の方法によって論文を事前によく精練する努力を心掛けて下さい。その上での投稿こそ「熱烈歓迎」いたします。

ただ一方で、査読のプロセスや基本指針が投稿者に十分理解されていない面もあるかと考え、編集委員会では査読に関する情報開示を目指して現在開示情報づくりを急いでいるところです。このプロセスや基本指針に関する理解が会員に共有される事が、自ずと上記の問題点の解決になにがしかの寄与をもたらしてくれると考えています。

この他編集委員会では現在、編集委員会体制の再検討、財政問題、専門領域登録区分リストの再検討などの作業を進めています。紹介すべき研究動向や書評に取り上げるべき書籍などの情報も、

までどしどしお寄せ下さい。

(清水新二・奈良女子大学)

## 全国家族調査特別委員会

本委員会は、現在、以下のような活動を行っています。

### (1) NFR98関連

- ・周知のように、NFR98を用いた論文は、合計8冊の報告書に収録されているもののほか、各種雑誌などに掲載されていますが、これらを踏まえつつ、やや深化した分析に基づく論文集を最終成果刊行物として出版するべく準備を進めています。
- ・東大SSJを通じて公開されているNFR98データが、外国の研究者によっても利用できるよう、調査票およびコードブックの英訳作業を行っています。9月の学会大会頃には完成させる予定です。
- ・NFR98の全調査項目について性別・出生コーホート別の集計結果表をつくりました。後述するNFR委員会のホームページに掲載しますので、学部学生なども利用できます。
- ・東大SSJを通じて公開されているNFR98データは、「教員の指導を受けた学部学生」も所定の手続きにより利用できます。実際に学生が利用する場合、とくに利用後のデータ消去などに関し、指導教員にあたる方が責任をもって確認していただきますようお願いいたします。
- ・報告書（第1次・第2次セット）の残部があります。ご希望の方には送料のみの負担で頒布しますので、委員会事務局までご連絡ください。

### (2) S01調査

松田苑子委員を代表者とするS01調査「戦後日本の家族の歩み」が3月はじめに終了しました。対象は1920～69年出生の女性で、全国確率標本5,000を抽出し、69.5%の回収率でした。目下、S01班メンバーによって、データ・クリーニングが行われています。NFR委員会としては、このデータもいずれ公開する方向で検討していきたいと思っています。

### (3) NFR03関連

「03委員会」のもとに、学会員に広く呼びかけて「NFR98検討研究会」をつくりました。去る2月23日、27名が参加して第1回研究会が開かれ、以後3月29日、4月27日と回を重ねています。ここで行われているNFR98を用いた諸論文（報告書論文を含む）の合評、NFR98調査項目の信頼性・妥当性の検討、NFR98の調査デザイン・標本設計などの検討は、NFR03をよりよく実施することに資するはずで、関心をおもちの会員は、本研究会世話人（稲葉昭英・加藤彰彦・西野理子会員）へご連絡ください。

委員会のホームページが間もなく生まれます。5月半ば頃には、学会ホームページとリンクしますので、ご利用ください。  
(藤見純子・大正大学)

## お知らせ

### IIS世界大会（北京、2003年7月）への取りくみと参加呼びかけ

#### 1. 経緯

IIS(International Institute of Sociology)の第36回世界大会が、2003年7月7～11日に、北京（中国）で開催されます。統一テーマはSocial Change in the Age of Globalizationで、中国社会科学院社会学研

究所（景天魁所長）がホストです。3月に訪中した折にホスト側から非公式な協力要請を受けた石原（会長）が、帰国後に3月の理事会で紹介・提案した結果、学会の国際交流拡大の一環として位置づけ、会長と国際交流担当理事が中心となって取り組むことになりました。ただし、機関決定による公式企画とはせず、有志による企画及び参加を、学会として可能な範囲でバックアップするという形になります。

## 2. セッション企画の設定

その後の関係者による協議の結果、IISプログラム委員会に、セッションを起こす申し込みをすることになりました。

- 1) タイトル： Family Change in East Asia—Toward Comparative Perspective—
- 2) コーディネーター： 石原邦雄・熊谷（松田）苑子
- 3) セッションの主旨とねらい：

日本家族社会学会が取り組んでいる全国家族調査（NFR）の企画と結果を諸外国、とりわけ東アジア諸国の研究者に伝え、当初からの目標のひとつである、NFRをもとにした国際比較調査プロジェクトに発展させる可能性を検討するための国際的なネットワーク形成の機会とする。外国からの参加者にはあらかじめNFR98データやアウトプットについて資料提供した上で、各国の家族変動の動向分析結果とともに全国規模の家族調査データの現状、および精度の高い比較調査実施の展望について提案を求め、討論する。できれば、成果をまとめて英文誌等公表したい。

## 3. 今後の情報

IIS北京大会についてはインターネット上で情報提供されています。我々の企画以外のセッションなどへの登録や個人発表の申込みの可能性も開かれています。

( <http://www.iis2003beijing.com.cn/en/index.htm> )

なお、このNFRをベースにした東アジアの家族比較の展望についてのセッションに関心のある方および参加希望の方は、石原または熊谷（松田）までご連絡下さい。

また、大会参加の費用は原則として個人負担となりますのでお含みおき下さい。

石原邦雄 E-mail:  
熊谷（松田）苑子

## 事務局便り

\* 諸般の事情により、会員名簿の発行が遅れまして、まことに申し訳ありませんでした。このニュースと相前後して、届く予定です。今回の名簿発行には、日本大学の清水浩昭前事務局長が、さまざま点でご尽力下さいました。紙面を借りて御礼申し上げます。

\* 昨年打ち切られた学術振興会の定期刊行物助成金（80万円）の内定通知をいただきました。今年は、財政的に、一息つける見込みです。

\* なお、諸般の事情により、現在、学会事務委託に関し、委託先の変更を含めまして、ワ

ールドプランニング等と交渉を行っております。今後のニュース等で経過等をお知らせしますので、ご確認をお願い申し上げます。

\*会費請求が同封されております。会則により、二年間会費の納入がない方に関しては、自動退会になりますので、ご注意下さい。

なお、学生会員、一般会員の区別は、自己申告となっております。就職、学術振興会特別研究員への就任等により、学生の身分を喪失された方は、一般会員の金額をお支払い下さい。合わせて、別紙（メールまたはFAX）で、事務センターへの連絡をお願い申し上げます。

\*会員異動については、補遺を発行する予定です。

（山田昌弘・東京学芸大学）

### 会員異動（2002年3月理事会承認）

#### ● 新入会員 13名

正	浅野 富美枝	宮城学院女子大学学芸学部生活文化学科
学生	渡辺 めぐみ	お茶の水女子大学大学院博士課程
正	島田 友子	県立長崎シーボルト大学看護栄養学部
学生	井口 高志	東京大学大学院
学生	松崎 実穂	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程
学生	石倉 裕美	大正大学人間学研究科修士課程
正	中山 まき子	鳴門教育大学 学校教育学部
学生	松木 洋人	慶應義塾大学大学院社会学研究科
正	原田 謙	東京都老人総合研究所
正	斉藤 進	日本子ども家庭総合研究所母子保健研究部
学生	玉川 貴子	専修大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程
学生	鈴木 奈穂美	日本女子大学大学院人間生活学研究科生活環境学専攻
学生	田中 優子	金城学院大学大学院

#### ● 退会 3名

正	榎並 英子	ノートルダム清心女子大学家政学部
正	原 久子	(有) アモルファス生活研究室
正	山田 梨佐	国立療養所再春荘病院付属看護学校

### 編集後記

今回は、諸般の事情で発行時期が遅れました。ご了承ください。ニュース担当委員として、西村純子会員が加わります。ご支援・ご協力をお願いします。

学会大会は9月に東京学芸大学で開催されます。多くの会員の出会いの場となることを期待しています。

（渡辺秀樹・慶應義塾大学）